

(仮称)札幌市視聴覚障害者情報文化センターの整備について

視覚や聴覚に障がいのある方の情報関連事業を集積した中核施設として、(仮称)札幌市視聴覚障害者情報文化センターを整備します。

この施設は、札幌市女性センター跡施設を改修し、老朽化・狭隘化している視力障害者福祉センター(中央区北2条西12丁目)を移転・再整備するとともに、聴覚障がいのある方への総合的な情報提供を行う聴覚障害者情報提供施設を新たに設置するもので、本年7月下旬に改修工事に着手します。しゅん工は平成17年3月、オープンは5月を予定しています。

1 整備の必要性

- (1) 現視力障害者福祉センターの施設の老朽化が著しく(昭和40年建築,築39年),IT機器利用開放事業など視覚障がいのある方が利用しやすい環境整備が求められている。
- (2) 国において平成2年に「聴覚障害者情報提供施設」が法定施設として位置付けられたため、本市においても同施設を整備する必要性がある。

2 設置場所

- (1) 札幌市女性センター跡施設(中央区大通西19丁目)

建築構造:鉄骨鉄筋コンクリート造(一部鉄筋コンクリート造)

地上2階地下一部1階建て

1階 点字図書館

盲人ホーム(昭和37年厚生省社会局長通知に基づくもの)

音声パソコン訓練室,点字訓練室,IT機器利用開放室 等

2階 聴覚障害者情報提供施設

点字図書館の録音スタジオ

会議室兼ボランティア交流室 等

延床面積:3,231.0m²

敷地面積:2,326.2m²

- (2) 理由

地下鉄駅から徒歩1分と近く,視覚障がいのある方にとっても交通の便がよい。

社会福祉総合センターや保健所,精神保健福祉センターなどの保健福祉施設が隣接しており利用者の利便性が高い。

3 施設の特徴

- (1) 新たに視覚障がいのある方へのIT機器利用開放室や,聴覚障がいのある方を対象とした字幕・手話入りのビデオカセットを自主制作するためのスタジオ,情報機器の貸出室等を整備する。

- (2) センター及び周辺のバリアフリーとして、地下鉄駅出口から施設までの歩道の改修やロードヒーティング化、施設内外の点字ブロックの敷設、非常警報装置（光や文字で火災情報等を知らせる表示器。平常時は一般の案内表示器としても利用できる）、磁気ループ（補聴器利用者が音を聞き取りやすくする装置）などを整備する。

4 施設内容

- (1) 点字図書館（蔵書数：点字図書約 21,000 冊，録音図書約 29,000 巻ほか）
点字図書室 点字図書・拡大図書製作室，印刷製本室，点字プリント室 録音図書（スタジオ，編集室，校正室） 事務室，相談室等
- (2) 盲人ホーム（あんま・はり・きゅうの免許を持つ視覚障がい者で自立が困難な方に対し，再度技術指導を行う）
- (3) 中途失明者社会適応訓練室
音声パソコン訓練室，点字訓練室 IT 機器利用開放室
- (4) 聴覚障害者情報提供施設
フィルムライブラリー製作・貸出室・スタジオ 聴能言語訓練室 事務室等
- (5) 団体事務室
- (6) 共用スペース（会議室兼ボランティア交流室）

5 平成 16 年度予算総額

5 億 2 , 8 0 0 万円（改修工事費，歩道ロードヒーティング，現視力障害者福祉センター解体設計費等）

問い合わせ先：保健福祉局保健福祉部障がい福祉課 電話 211-2936
--